

## 医学部史料室のデジタルアーカイブとの連携による企画展示の実施

名古屋大学附属図書館医学部分館

蒲生 英博

このたびは思いがけず、協会賞という日本医学図書館協会の伝統ある賞をいただき、たいへん光栄に思っております。現在の私の仕事のなかでは、本学の医学部が発行している英文の学術雑誌の編集事務が一番大きな割合を占めていて、また気苦労が絶えない仕事なのですが、デジタルアーカイブと企画展示は、楽しんでできる仕事です。この気楽にやっている仕事協会賞の対象になったという連絡を受けた時に、申し訳ないことに協会賞が何であるかをまったく知らず、悪い冗談のように感じたものでした。医学史や科学史の研究者なども含めて少しは知られるようになってきたこの仕事を、受賞記念発表でご紹介できる機会を与えていただき、ありがとうございます。また、協会賞に推薦してくださった方、選考委員会のみなさまには、この誌面をお借りして、感謝いたします。

名古屋大学医学部史料室は、現在の医学部図書館が完成した1971年にはすでに「資料室」として4階に設置されていました。倉庫同様の状態であった資料室は、1986～1998年に医学部同窓会の卒業30周年記念事業として整備され、名称も「史料室」と改められました。ここには、本学の創基とされる1871（明治4）年前後からの医学部および医学史、医療史に関する、古医書、文書、講義録・ノート、絵画、絵葉書、写真、歴史的医療器具などを保管、展示しています。しかし、貴重な品が多く、2階にある図書館の事務室とも離れているため、普段は施錠しています。

史料室をもっと活用してほしい、すでにその存在を知っている医学、医学史、郷土史などの研究者だけでなく、より広く利用してほしい、と考えていました。そこでまず、若い世代が医学に関心を持つ契機とすること、生涯学習の教材とすることの2つの目標を立てまし



た。しかし、史料室には独自の予算が無いこと、担当者は一人しかいないことなど、問題もありましたので、目標を達成するために、科研費などの外部資金を獲得し、史料室の所蔵品のデジタルアーカイブを公開し、所蔵品に触れる機会を提供するために展示会を開催する、という大まかな3年計画を立てました。

幸いにして、ほぼ計画どおりに進めることができました。現在、デジタルアーカイブは、海外からの利用に応えるために英語版も公開しており、10回目に達した企画展示には毎回老若男女、様々な方が観覧に来られます。デジタルアーカイブと企画展示をできるだけ効率よく運用するために、デジタルアーカイブで作成した画像と各史料の説明文（メタデータ）は、展示会での解説に使う画像とキャプションと共通のものとして、適宜改訂していく、という方法をとっています。

協会賞の受賞は、史料室の整備や、所蔵品の調査に関わってこられた諸先生、諸先輩の功績の賜物と思っております。この受賞を励みに新たな出発として、初心に戻り、精進していきたいと思っております。ありがとうございました。

\*Hidehiro GAMOH : 〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65.  
Tel.052-744-2505 Fax.052-744-2511  
library2@med.nagoya-u.ac.jp (2015年7月16日 受理)